



橋本林間田園都市 住宅祭

主催

財団法人住宅生産振興財団

日本経済新聞社

後援

建設省・通商産業省・和歌山県

橋本市・住宅金融公庫

協賛

(財)日本建築センター・(財)住宅部品開発センター・(社)プレハブ建築協会・(社)日本ツーバイフォー建築協会

協力

南海電気鉄道株式会社

出展参加社

積水化学工業株式会社

積水ハウス株式会社

大成建設株式会社

大和ハウス工業株式会社

東芝住宅産業株式会社

ナショナル住宅建材株式会社

南海住宅株式会社

南海地所株式会社

南海土地建物株式会社

南海不動産株式会社

ミサワホーム株式会社

殖産住宅相互株式会社

(順不同)

住宅祭テーマ

「緑と語らいの街づくり」

会場

南海電鉄が和歌山県橋本市に造成中の橋本林間田園都市の「城山台」地区。橋本林間田園都市は、総面積730ヘクタールの土地に14000戸、人口5万人規模の新田園都市建設をめざすもので、昭和51年着工、昨年末B団地「城山台」の造成を完了した。南海電鉄の開発テーマが、「21世紀のこど

もに新しいふるさとを」であり、住環境を重視した田園都市創造をめざしているだけに、財団住宅祭としては絶好の場所といえる。

住宅展示

モデル住宅展示ゾーンと街区展示ゾーンに分けられている。

モデル住宅展示ゾーンには、出展12社の技術の粋をあつめたモデル住宅14棟が展示される。「緑と語らいの街づくり」のテーマにした

が道路側に面する隣家との敷地境界を塀で区切らず、両方の敷地からそれぞれ植樹し、共有の緑をもつように工夫されている。またモデル住宅の道路側前面も、次のような街区展示ゾーン同様の工夫がこらされている。

街区展示ゾーンは、街路ごとに

出展各社が工事管理を担当する。各戸の道路との境界はすべて生垣とし、生垣と道路との間には、80cm程度の低木の寄植をし、門塀の高さも1.2mまでに統一する。また道路の両側は、ベニカナメ、サザンカなど街区毎に統一した植樹をし、それぞれベニカナメ通り、サザンカ通りなどとし、街なみの美

しさをもりあげるさまざまな配慮がなされている。

建築現場見学会

2回に分けて行われ、第1回は5月25日(日)モデル住宅の基礎工事を中心に見学した。90組160名が参加、熱心に見学、質問していた。

第2回は6月22日(日)に行われ当日はモデル住宅の上棟過程を中心に見学、参加者は90組160名に上った。

日経住宅セミナー

橋本住宅祭の関連事業として、住宅セミナーがすでに2回ひらかれている。

日経住宅セミナー(Ⅰ)

5月24日(土)大阪天満橋日本経済新聞社8階ホールで行われ、講師と演題は次の通り。

★「大規模開発の

総合的メリット」

元豊中市長・現大阪府顧問

竹内義治氏

★「資金づくりと税金対策」

公認会計士・税理士 中谷洋一氏

聴講者約110名。
日経住宅セミナー(II)

6月21日(土)同じく日本経済新聞社8階ホールでひらかれた。講師と演題は次の通り。

★「土地、住宅の見方、選び方」
(社)大阪土地協会常務理事

武村泰太郎氏
★「住宅購入者へのアドバイス」
関西不動産研究所長

塩見 宙氏



写真は日経住宅セミナー(II)
講師は武村泰太郎氏

住宅祭の新聞広告

住宅祭の広告は、新聞広告を主軸に放送、ポスター等を利用して、妙円寺、橋本ともに住宅祭開催日の四カ月乃至五カ月前に、住宅祭の趣旨と行事を知らせる大スペースの広告を掲載している。妙円寺住宅祭の七月末までの出稿は19頁に紹介したとおりであるが、橋本住宅祭の新聞広告は、5月16日と6月12日にいずれも全10段(本誌10頁参照)を日本経済新聞に掲載した。6月12日の場合には、見開き2頁を橋本林間田園都市関係の記事と広告でうめている。左頁下10段に財団住宅祭の広告、右頁下10段に南海電鉄出稿の南海橋本林間田園都市の全容を紹介する広告、上の見開き5段通しのスペースには、橋本林間田園都市住宅祭座談会と城山台紹介の記事がのっている。

なお橋本の場合には、6月下旬から7月上旬にかけて、橋本住宅祭参加作品合同販売会の販促広告が出展社の出稿で掲載されており

★妙円寺住宅祭の全頁広告。5月25日南日本新聞掲載。

スペースは全頁と全7段で、日本経済、朝日、毎日、読売、サンケイ、サンケイリビングの各紙を使用している。

なお、財団出稿の住宅祭広告はこのあと、住宅祭開催の直前になって再び開始される予定である。また、テレビ、ラジオによるパブリシティも企画されている。

